

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

アレチウリ

学名 *Sicyos angulatus*



木に巻き付く



アレチウリの花

北アメリカを原産とするツル植物で、全世界的に外来生物として侵入しています。日本では1952年に静岡県清水港でアメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入しているのが確認されたのが最初とされています。

果実は小さく、鋭い棘があります。河川敷などでクズやカナムグラと同様に木々を覆うように群落を作ります。土木作業等での土の運搬に伴って拡散したり、野鳥の糞に混ざったり、河川の増水時に群落ごと別の場所へ流されたりして分布を拡大しています。

影響

灌木林を覆うように成長するため、日照不足で樹木が枯れることもあります。また、河川敷のヨシやオギ等の（抽水植物）群落を浸食してしまうと、その環境に依存する小鳥や昆虫に影響があります。

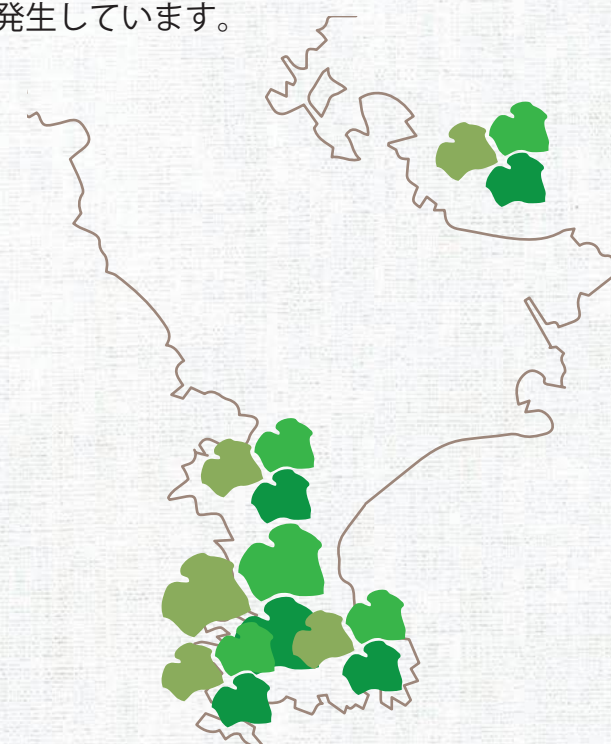
一年草のため、種子をつける前に防除することが重要です。

果実に鋭い棘があるため、群落の規模が大きくなってしまうと人の立ち入りは困難です。発芽直後に丁寧に抜き取り、駆除する必要があります。

スイカに感染する病気を媒介するため、農業被害も発生しています。

三浦半島での分布傾向

多摩川沿いや相模川沿いには古くから生育していましたが、三浦半島ではほとんど見ることはありませんでした。近年海岸で小群落が見つかっており、海流に乗ってきた種が流れ着いたと思われます。今後増やさないように、早期に防除していく必要があります。





冬枯れしたようす

マント群落を作る在来種

※

林縁を覆うようにツルが繁茂している所をマント群落と呼びます。林の中の環境と林の外の草むらとの境目にある植生です。

カナムグラ

在来種

茎に小さな棘があります。葉は薄くザラザラしていて、5～7裂に深く切れ込んだ掌状しょうじょうになっています。実は米粒状で、スズメやアカネズミが好んで食べます。



カナムグラ

カラスウリ

在来種

葉はハート型で表面は短い毛で覆われており、10センチ程度で白いレース状の花を夜に咲かせます。オレンジ色が鮮やかな実をつけます。サツマイモ状の塊根ができます。



カラスウリ

クズ

在来種

1枚が3つに分かれた薄く大きな葉をつけます。花は紫色で房状につき、甘い香りがします。長芋状の塊根ができます。



クズ

駆除の方法

アレチウリは、一年草のため、冬季には根も含め枯れ、春に種から発芽して群落を作ります。群落を見つけたら、冬の間に全面的に刈り払って更地にしておき、春になって発芽した芽を一つ残らず抜き取って駆除をします。種は大豆大で大量にできるため、群落が大きくなればそこから流出して新たな場所に流れ着く確率も上がるため種を残さずとる必要があります。



種子

注意

アレチウリは、特定外来生物に指定されており、所持や運搬等が禁止されています。特に、抜き取った植物を捨てる時、野積みは絶対にせず、焼却処分する必要があります。運搬している途中に種が落ちないように注意が必要です。

果実には鋭い棘があり、体に刺さると非常に傷みます。軍手やズボンも貫通するため、胴長靴を着用するなどして怪我を予防しましょう。



棘のある果実

林を覆う外来種

ハヤトウリ

外来種

中米原産で、三浦半島では津久井や上山口等で野生化しています。洋梨大の白い実が多数つきます。多年草で毎年同じ場所から発生します。実は食べられます。



ハヤトウリ

ソライロアサガオ

外来種

中米原産で、最近グリーンカーテンの普及と共に各地で野生化しています。多年草で茎も枯れず、樹木に巻き付きながら十メートル以上に成長します。



ソライロアサガオ